

夏のおてがみ



船を見に行く

アントニオ・コック/著 ルーカ・カインミ/画
なかのじゅんこ/訳
きじとら出版



ぼくはよく船を見に行く。ママにないしよでパパとふたりで見に行くときもあれば、一人きりで見に行くときもある。船がほんとうは生きていることを、港ではたらくひとたちは知らない。船がとうめいな旅人をはこんでいることも知らない。港のある町にすむ、船を見るのが大好きな男の子の、しずかなひみつのおはなしです。

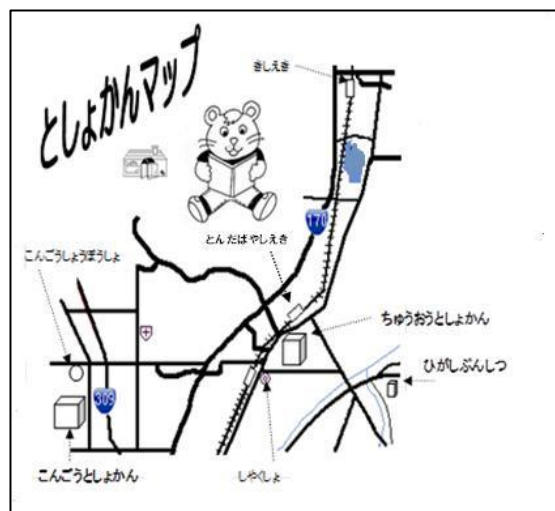


王様に恋した魔女

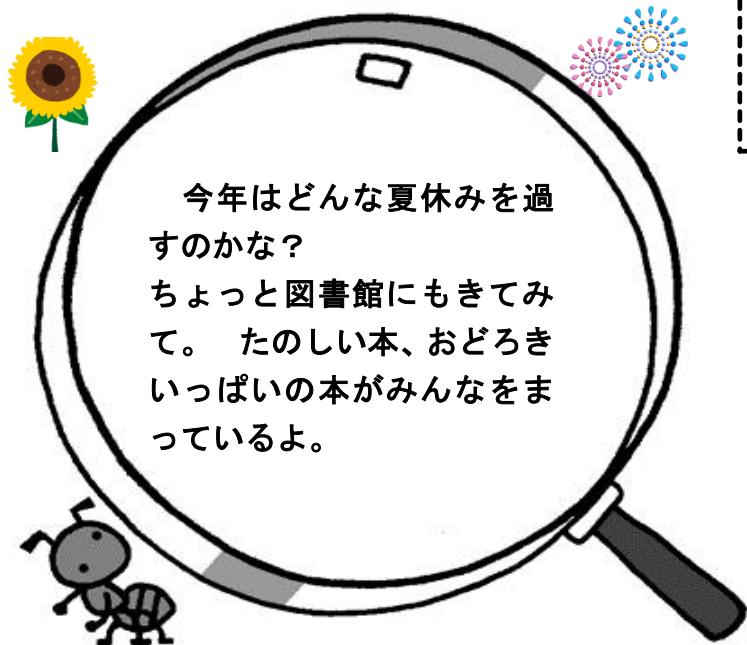
柏葉 幸子/著 佐竹 美保/画
講談社



これは魔女や竜が存在する世界のお話です。魔女の力は強く、多くの人々は味方につけたいと思っていました。しかし、自分の味方にならないのなら、殺してしまおうと考える人もたくさんいたのです。ある魔女は人間のふりをして逃げ続け、またある魔女は王様に恋をして彼の国を支えました。魔女たちそれぞれの人生の物語です。



5年生*6年生のみなさんへ

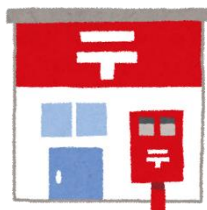


今年はどうな夏休みを過ごすのかな？
ちょっと図書館にもきてみて。たのしい本、おどろきっぱいの本がみんなをまっているよ。

シュヴァル

郵便配達夫の宮殿をたてた郵便配達夫

おかや こうじ/文 やまね ひでのぶ/絵
岡谷 公二/文 山根 秀信/絵
福音館書店



郵便局に勤めていたシュヴァルは、配達をしている時、いつも空想の中で自分の宮殿を建てていました。そしてたったひとりで石を集め、少ないお金でセメントや石灰を買い、33年かけて自分の宮殿を完成させました。まわりに変な人だと笑われても、あきらめず作ったその場所は、今もなお残って人々がおとずれるまでになっています。

フーさんとであった日

世界でいちばんゆめいなクマのほんとうにあったお話

リンジー・マティック/ぶん ソフィー・ブラッコール/え
山口 文生/やく 評論社



100年ぐらいまえのことです。カナダのウィニペグというところにハリー・コーンボーンという獣医師がいました。戦地で軍馬の世話をするために汽車に乗った彼は、途中下車をしたホワイト・リバー駅で運命の出会いをします。それはりょうしがつれていたあかちゃんグマでした。

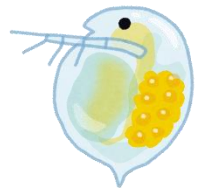
まるごとえだまめ

(絵図解やさい応援団)

八田 尚子/構成・文 野村 まり子/構成・絵
大竹 道茂/監修 絵本塾出版



豆は色々な食品に加工され、食卓を支えています。なかでも大豆は縄文時代から栽培されていて、生育途中の若い大豆(えだまめ)も平安時代には食べられていたようです。種類の多い大豆ですが、この本には日本や世界の豆文化、輸入・収穫量、料理など、えだまめの魅力がたくさん詰まっています。



小さなフランクtonの世界^{せかい}

小田部 家邦/ぶん 高岸 昇/え
福音館書店



水の中でただよったり、水面^{すいめん}に浮いたりして生活している小さな生き物たちがいます。それらの多くは小さくて、草や葉、虫や魚にも似たものもありますが、顕微鏡^{けんびきょう}で見ないとわからないくらいとっても小さいものなのです。プランクトンのために、池や湖が、緑色^{みどりいろ}や黄緑色^{きみどりいろ}、青緑^{あおみどり}などに見えたりすることがあります。こんな小さな生き物が輝^{かがや}いている世界をのぞいてみよう。



りゅうおうさまのたからもの

イチノロブ・ガンバートル/文
パーサンスレン・ポロルマー/絵
津田 紀子/訳 福音館書店



むかし、おとうとがうつくしいさかなをたすけたところ、りゅうおうさまからほうびにたからばこをもらいました。すると、そうげんのあちこちでみずがわきでました。「けっしてあけてはならぬ」といわれていましたが、にいさんがたからもののふたをあけてしまって、たいへんなことに。モンゴルのそうげんにすむきょうだいのおはなしです。



感じて見よう！ はじめてであう日本美術 1

かわいい、いさましい編
佐野 みどり/監修 教育画劇

美術鑑賞^{びじゅつかんしょう}は難^{むずか}しそう、日本美術なんてわからない。そう思っている人も「かわいい、いさましい」がキーワードのこの本を開いてみませんか。伊藤 若 冲^{いとうじゃくちゅう} や草間弥生^{くさまやよい}の作品も登場^{とうじょう}しています。作品に向かい合った時のワクワク感を大切にしているこのシリーズは全部で3冊。「かわいい」や「かわいい」もキーワードになっています。



30分でできる伝統おやつ 夏のおやつ

日本と世界のおやつがいっぱい！
伝統おやつ研究クラブ/編 偕成社



パレタ。ハロハロ。アルファフォーレス。どれもあんまり聞きおぼえない言葉^{ことば}ですね。実はこれ、いろいろな国の夏のおやつなんです。どんなおやつかは、この本を読^よんでのお楽しみ^{たの}みです。ほかにもわらびもちや水ようかんなど、みなさんがよく知っているおやつ^{なつやす}の作り方もついていますよ。夏休みにおうちで作ってみませんか。



ココの詩^{うた}

高楼 方子/作 千葉 史子/絵
福音館書店



お人形のココは、金色^{かぎ}の鍵^{かぎ}を拾ったことがきっかけで外の世界へと出ていきます。最初に出会ったネズミのヤスは、借金^{きん}のかたにココを宮殿^{きゅうてん}に住むネコのカーポに売り飛ばしてしまいます。何も知らなかったココは成長し、ヤスやカーポが美術館の絵を贋作^{がんさく}(にせもの)とすり替えて売り飛ばしていることに気が付きます。ココは悪に立ち向かいますが…。

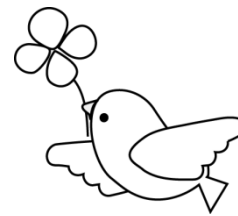


十三番目の子

シヴォーン・ダウド/作 パム・スマイ/絵
池田 真紀子/訳 小学館



一人の女が産んだ十三番目の子を、十三回目の誕生日に、いけにえにささげよ。さすれば、13年の繁栄が約束される。イニスコール村に古くから伝わる言い伝えだ。そして、ダーラこそ十三番目の子である。ダーラの十三回目の誕生日の前日、空の神ルグに出会う。ルグは言う、真実を教えるために来た、と。真実を知るためダーラは運命の裏側へと飛び立つ。



夏の猫

北森 ちえ/作 国土社



ぼくは5年生。名前は海。今年の夏休みは、広島県呉市のおじいちゃんの家で同い年のいとこの舟^{しゅう}と合宿をするんだ。勉強はお母さんの歳^{とし}のはなれた妹のなっちゃん^{なつちゃん}がみてくれる。なっちゃんは、超優秀^{ちようゆうしゅう}な理系女子で、ゴミ袋とアルミ箔^{はく}、アルコールなんかで気球を作ったりするんだ。

さあ、海辺の町で、3人の夏休みがはじまるよ。

